

〔科目名〕 仏教の思想				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 教養科目	
〔担当者〕 松本知己 Matsumoto Tomomi		〔オフィス・アワー〕 時間:授業の前後など、適切な時間帯に。 場所:教室、廊下、非常勤講師控室など、随所。			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 仏教は、紀元前 5 世紀前後のインドで成立した宗教である。朝鮮半島や中国を経て日本に伝来して以来、社会の要請に伴い変容しつつ独自の発展を遂げ、日本人の精神世界に大きな位置を占めてきた。本講義では、我々にとって「内なる他者」である仏教の思想史的な理解を目的として、その基本構造と、日本における受容と展開の多様性を学ぶ。 前半は、インド仏教の歴史を概観し、思想的展開を解説する。後半は、仏教文献の漢訳など、中国を中心とする漢字文化圏における受容の特質を確認する。その上で、各時代の仏教者の思想と実践を紹介しながら、日本仏教の形成と展開の過程を明らかにする。随時、政治状況、文化事象との関連や、他思想との交渉にも言及する。全体を通じて、日本人にとって仏教とは何であったか、そして何でありうるか、ということを理解し、現代に生きる私たちと宗教との関係を考察する契機にしたい。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目は、信仰を前提とせずに、仏教を一つの思想、あるいは文化現象として捉え、その成立と展開を学ぶ。古来より日本文化に溶け込んでいる仏教への理解を深めることは、まずは自身のアイデンティティを確認することにつながる。 地域振興はもちろんのこと、経済学や経営学を学ぶという点でも、経済的な活動は人の営みに他ならない。したがって、人間という生き物についての理解は必須である。宗教は、人間の世界観や価値観の基盤をなすと共に、その願望や欲望の受け皿にもなってきたのであり、人間存在の合わせ鏡ともいえる文化現象である。信仰の有無に関わりなく、宗教を知ること、それぞれの社会の基層を知ることができるというてよい。私たちは、日本の伝統的な宗教の思想構造を理解し、歴史を知ること、宗教的、思想的背景の異なる人々の思考様式を、より深く理解することができるようになるだろう。							
〔科目の到達目標〕 ・仏教という宗教が有する思想の基本的な構造を理解し、正しい日本語で記述できる。 ・インド・中国・日本における仏教の歴史的な推移を理解し、正しい日本語で記述できる。 ・日本仏教の特質を、現代に生きる自分自身との関連で理解し、正しい日本語で記述できる。。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 受講者の理解を深めるため、随時学習内容のまとめを行う。							
〔教科書〕 毎回資料を配付する。							
〔指定図書〕 宮元啓一『わかる仏教史』(角川ソフィア文庫、2017) 末本文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ』(新潮文庫、1996)							

〔参考書〕 平川彰『インド・中国・日本 仏教通史』(新版)(春秋社、2006) 蓑輪顕量編『事典 日本の仏教』(吉川弘文館、2014)	
〔前提科目〕 なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 3分の2以上の出席を前提に、期末のレポート(60%)と、平常点(40%。毎回提出するリアクションペーパーのコメントや、理解度の確認など、授業への参加具合を重視する。)によって、総合的に評価する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 宗教は人間性を全面的に反映した文化現象だが、その核心には思想がある。その基本構造を理解しないと、なかなか先へ進めない。予習は特に求めないが、簡単でもよいので事後の復習は行うよう、心がけてもらいたい。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか):総説 内 容:講義の目的と概要、学習方法、評価基準等の説明 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):宗教類型論から見た仏教 内 容:仏教及びインドの宗教・思想とセム的一神教の比較 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):インドの宗教・思想① 内 容:インド宗教思想史概観 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):インドの宗教と思想② 内 容:バラモン教、ヒンドゥー教の思想と神々 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):仏教の成立 内 容:釈迦(ゴータマ・シッダールタ)の生涯、仏教の誕生 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅰ章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 初期仏教① 内 容:仏教思想の基本構造(仏教は何をめざすのか) 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅰ章
第7回	テーマ(何を学ぶか):初期仏教② 内 容:実践論(仏教者の修行) 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅱ章
第8回	テーマ(何を学ぶか):初期仏教③ 内 容:仏教教団の構成と戒律 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅱ章
第9回	テーマ(何を学ぶか):部派仏教の成立 内 容:釈迦死後の教団分裂と諸部派の成立、展開 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章

第 10 回	テーマ(何を学ぶか):部派仏教の教理 内 容:部派の中で最も有力であり、現在も存在する「説一切有部」の思想 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):大乘仏教の起源と成立 内 容:思想運動として的大乗仏教、あるいは仏教の大衆化 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 1「初期大乘仏教」
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):大乘仏教經典の世界 内 容:紀元前後からインドで大量に作成された大乘仏教の經典群には何が書かれているのか 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 1「初期大乘仏教」2「中期大乘仏教」
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):空の思想① 内 容:大乘仏教の哲学的な基盤をなす「空」の思想の概要 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乘仏教の哲学」
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):空の思想② 内 容:『般若心経』を読んでみる 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乘仏教の哲学」
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):唯識思想① 内 容:「空」の理論化、体系化を目指す唯識派の思想と実践 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乘仏教の哲学」
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):唯識思想② 内 容:唯識思想の人間観 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乘仏教の哲学」
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):浄土教 内 容:阿弥陀仏信仰と浄土教の基本構造 教科書・指定図書
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):密教 内 容:密教をどのように理解すべきか。大乘仏教の思想的帰結と呪術の世界 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 4「密教と後期大乘仏教」
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):中国思想と仏教 内 容:儒教思想を基軸とする中国において、仏教はどのように受容されたのか 教科書・指定図書
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):中国仏教の特質 内 容:中国人による仏教の主体的な受容について 教科書・指定図書
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):日本天台の教学—最澄を中心に— 内 容:鎌倉仏教の母胎となった日本天台宗の成立と、その教学 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅱ章「密教と円教」
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):日本の密教 内 容:空海の真言密教(東密)と天台密教(台密) 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅱ章「密教と円教」
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想① 内 容:法然の浄土教思想(専修念仏の衝撃) 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」

第 24 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想② 内 容:法然の門流と親鸞(浄土真宗)の思想 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想③ 内 容:日本の浄土教における二つの流れ(観念・観想の念仏と称名念仏) 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想④ 内 容:日蓮の法華教学(唱題思想) 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅳ章「鎌倉仏教の諸相」
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想⑤ 内 容:禅とは何か。 教科書・指定図書
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想⑥ 内 容:栄西(臨済宗)と道元(曹洞宗) 教科書・指定図書
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):近代の知識人と仏教 内 容:夏目漱石と仏教。田中智学の日蓮主義と宮沢賢治。 教科書・指定図書
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):全体のまとめ 内 容:講義の総括と補足 教科書・指定図書
試 験	期末レポートの提出。試験は実施しない。